



札幌	2時間30分	道東自動車道経由・170km
旭川	2時間30分	国道237+38号線経由・130km
帯広	50分	国道38号線経由・45km
札幌駅	1時間42分	
東京	1時間10分	1時間15分
大坂	1時間40分	
東京	1時間35分	40分 (帯広駅) 30分 (帯広空港) 60分

● 車 ● JR ● 飛行機 ● バス

社会福祉法人 厚生協会

社会福祉法人厚生協会では、法人各施設・事業所の様子や情報をホームページやブログで公開しています。ご意見やご希望についても電話・Eメールで受け付けています。又、ご希望の方は見学することができますのでお問い合わせ下さい。

厚生協会ホームページ/ <http://www.wakafuji.or.jp>
 ブログ/「わかふじ寮時記」 <http://blog.canpan.info/wakafuji/> 「屈足わかふじ園日記」 <http://blog.canpan.info/wakafujienn/>
 「やすらぎ荘ブログ」 <http://blog.canpan.info/yasuragi-so/> 「ひまわり荘Diary」 <http://blog.canpan.info/48-himawari/>
 E-mailアドレス/ wakafuji@netbeet.ne.jp(わかふじ寮) wakafuji@rose.ocn.ne.jp(屈足わかふじ園)
yasuragi@rainbow.ne.jp(やすらぎ荘) himawari@bb.rainbow.ne.jp(ひまわり荘)
ssh5209@khakiplala.or.jp(新得白生舎)



きずなの郷

安心と快適、お一人おひとりの幸せを追求した郷

ご案内



社会福祉法人 厚生協会

社会福祉法人 厚生協会の事業

理事会
理事7名

評議員会
評議員8名

監事
2名

障害者施設

高齢者施設

短期入所施設

訪問介護事業所

通所介護

その他事業

障害者支援施設 わかふじ寮

施設入所支援（日中サービス[就労継続支援B型]・指定特定相談支援事業所）

障害者支援施設 第2わかふじ寮

施設入所支援（日中サービス「生活介護」）

障害福祉サービス事業所 わかふじワークセンター

就労継続支援B型

共生型ホーム さくら I・II・III

障害者支援施設 屈足わかふじ園

施設入所支援（日中サービス[生活介護]）・短期入所・指定特定相談支援事業所

聴覚障害者養護老人ホーム やすらぎ荘

特別養護老人ホーム 新得やすらぎ荘

地域密着型特別養護老人ホーム 新得やすらぎ荘

短期入所生活介護事業所 新得やすらぎ荘

居宅介護支援事業所 新得やすらぎ荘

訪問介護事業所・介護予防訪問介護事業所 新得やすらぎ荘

通所介護・介護予防通所介護事業所 日帰りサービスセンターやすらぎ荘

通所介護・介護予防通所介護事業所 清水デイサービスセンターやすらぎ荘

通所介護・介護予防通所介護事業所 日帰りサービスセンターやすらぎ荘 たんぼぼ

養護老人ホーム ひまわり荘

特定施設入居者生活介護事業所 ひまわり荘

訪問介護事業所 ひまわり荘

社会福祉法による授産施設 新得白生舎

沿革の大要(法人)

■昭和28年4月

上川郡新得町東1線42番地において、藤川マキエ、田中蛟一の両氏が田村政雄氏より土地、建物の提供を受け、北海道身体障害者授産施設を創設する。



■昭和28年5月

同町西1線48番地に収容施設わかふじ寮を併設する。

■昭和29年

社会福祉法人の認可申請を行う。

■昭和30年12月

社会福祉法人として厚生大臣より認可され社会福祉法人厚生協会わかふじ寮と改名する。初代理事長に田村政雄・初代施設長に藤川マキエが就任する。（第1種社会福祉事業開始届出完了）

■昭和33年8月

お年玉年賀はがき寄附金の配分を主財源として木造モルタル2階建木工指導室330㎡を新築し、木工機械設備を備える。



■昭和33年9月

厚生大臣より身体障害者収容委託施設として指定を受ける。（定員24名）

■昭和34年4月

天皇陛下より御下賜金を拝領する。

■昭和35年12月

お年玉年賀はがき寄附金の配分を主財源として収容施設わかふじ寮耐震ブロック造283㎡を新築し、熱風式暖房設備を併設する。

■昭和36年3月

地方振興助成金を受け、機械設備を増設する。

■昭和36年4月

天皇陛下より御下賜金を拝領する。

■昭和37年9月

お年玉年賀はがきの寄附金及び道費の補助金を主財源として処遇用管理棟木造モルタル仕上2階建438.5㎡を新築し、暖房諸設備を併設する。

■昭和38年4月

天皇陛下より御下賜金を拝領する。

■昭和38年6月

収容定員50名に増員の許可を受ける。

■昭和39年12月

道共同募金会及び日本自転車振興会(競輪)の補助及び道費補助の配分を受け、鉄骨ブロック造2階建木工指導室330㎡を増築し、機械設備を備える。

■昭和41年3月

道共同募金会及び日本自転車振興会(競輪)の補助を受け、鉄骨ブロック造平屋98.4㎡の木造乾燥室を新築し、プレス室ポイラー室併設する。道共同募金会及び町費補助によって、隣接地2,227.5㎡を取得する。

■昭和43年3月

日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として、鉄骨ブロック造2階建330㎡の木工指導室を増築する。

■昭和44年3月

道費補助金を主財源として、収容棟耐寒ブロック造2階建432㎡を増築し、定員70名に増員する。

■昭和45年9月

道共同募金会の配分金並びに町補助金を主財源として、管理棟浴室30.84㎡を増築する。

■昭和46年4月

理事長藤川マキエ氏が社会事業功労者として、勲五等瑞宝章を受章する。

■昭和47年4月

隣接地2,187㎡を取得する。

■昭和47年12月

木工指導室に共同募金会の配分金を主財源として、熱風式暖房装置を設置する。



■昭和48年12月

道共同募金会の補助金を主財源として、木工指導室に暖房設備を完成する。

■昭和49年3月

施設製作の家具2点が道産優良推奨品として指定を受ける。

■昭和49年6月

車庫69㎡カラートタン張りを新築する。

■昭和49年12月

日本自転車振興会(競輪)補助金を主財源として鉄骨2階建一部平屋木工指導室

476㎡を増築し、暖房設備、リフト設備を併設し機械設備の充実を図る。道共同募金会の配分金を主財源として、ポイラー室及び炊事室の改装工事を行い、炊事設備の改善を図る。

■昭和50年2月

全国優良家具建具認証委員会より全国業者の中から当施設を全国優良家具建具取扱認定証企業として認定を受ける。

■昭和50年3月

道産推奨家具に3点合格し、前年と共に5点の指定を受ける。

■昭和50年11月

日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として、職員住宅2棟4戸188.1㎡を新築する。

■昭和50年12月

中央競馬社会福祉財団の補助金を財源として、集塵室48.6㎡を新築し、集塵装置を木工機械に附設する。

■昭和52年3月

日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として、収容施設女子収容棟520㎡を新築する。



■昭和52年8月

収容人員95名に増員の認可を受ける。

■昭和52年12月

中央競馬社会福祉財団の補助金を主財源として、自家発電装置及び木工訓練機械の増強を図る。

■昭和53年12月

地方振興資金及び道費補助を受け、木工機械の改善増強を図る。道費補助を受け、消防用設備(消防ポンプ及び貯水槽)の改善を図る。

■昭和54年3月

日本自転車振興会(競輪)の補助金を受け、職員住宅2階建1棟4戸188.04㎡を新築する。

■昭和54年8月

大型洗濯機及び乾燥機を地方振興資金の補助金を受けて整備する。

■昭和54年12月

地下貯油タンクの設備及び敷地内の舗装を行う。丸紅基金の助成により、10人乗りワゴン型車輛1台を整備する。

■昭和55年4月

新得町より老人ホーム建設敷地の一部として土地15,669.43㎡の寄付を受ける。

■昭和55年8月

道共同募金会の補助を受け、わかふじ寮暖房機器の改善を図る。

- 昭和55年12月
道費補助とIBM基金の助成を受け、わかふじ寮木工機械の設備増加を図る。
- 昭和56年3月
日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として、聴覚障害者養護老人ホームやすらぎ荘(定員50名)1,468.46㎡を新築する。



- 昭和56年4月
やすらぎ荘を開所、田中皎一が初代施設長となる。
- 昭和56年9月
道(地方振興)補助金を受け、収容棟老朽屋根修理を行う。
- 昭和56年10月
道(地方振興)補助金を受け、やすらぎ荘にリハビリ機器を整備する。

- 昭和57年11月
日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として、やすらぎ荘職員住宅2階建1棟6戸190.6㎡を新築する。
- 昭和57年12月
丸紅基金の助成により、7人乗り2tトラック1台を整備する。
- 昭和58年4月
道共同募金会の補助により、やすらぎ荘にワゴン型車輛1台を整備する。

- 昭和58年5月
清水基金の助成により、50人乗り大型バスを購入する。

- 昭和58年12月
道費補助を受け、やすらぎ荘前庭アスファルト舗装と併せて一部排水設備を整備する。
- 昭和59年1月
日本テレビ「24時間テレビ愛は地球を救う」チャリティーより、やすらぎ荘に車椅子用リフト付車輛の寄贈を受ける。

- 昭和60年1月
藤川マキエ理事長急逝。新得町葬により葬儀を施行する。
- 昭和60年2月
後任理事長及びわかふじ寮施設長に田中皎一が就任する。やすらぎ荘の施設長に後任として大山口功が就任する。

- 昭和60年7月
新得町よりカラ松加工場並びにうるし塗装工場建設の条件で本通り北6丁目1,638.4㎡を無償譲渡、1,638.53㎡を無償貸与を受ける。

- 昭和60年11月
中央競馬主社会福祉財団の補助金を受け、カラ松加工場372,739㎡を新築する。



- 昭和60年12月
日本自転車振興会(競輪)の補助金を受けカラ松加工機一式(12台)を設備する。

- 昭和61年7月
共同募金会の補助により、行事用テント3張を整備する。

- 昭和61年9月
藤川記念碑整備



- 昭和62年3月
清水基金の助成により、うるし塗装工場77.76㎡を新築し機械、備品を整備する。



- 昭和63年7月
新得町社会福祉協議会愛情銀行等の助成により、特別養護老人ホーム建設用地として太田英義氏より土地2,535.1㎡を取得する。

- 平成元年10月
道共同募金会の補助により、全自動木材乾燥機を設備する。

- 平成2年4月
日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘並びに在宅老人日帰りサービスセンターやすらぎ荘3,145.15㎡を新築し開所する。
- 平成2年7月
施設長に大山口功が就任する。



- 平成2年8月
通所事業(定員5名)を新たに開始する。

- 平成3年4月
わかふじ寮田中皎一施設長退任により、後任施設長に田中雅之が就任する。

- 平成3年10月
通所部定員10名に増員の認可を受ける。
- 平成3年11月
軽作業棟162㎡を新築する。



- 平成3年12月
丸紅基金の助成により、4tトラック1台を整備する。

- 平成4年4月
認可外保育施設たんばぼ園を開園する。



- 平成5年3月
わかふじ寮通所部定員15名に増員の許可を受ける。

- 平成6年11月
新得町助成及び法人本部自己資金により、重度身体障害者授産施設建設用地として、太田英義氏より土地16,570㎡を取得する。

- 平成7年4月
田中皎一理事長退任により、後任理事長に山本実が就任する。

- 平成7年7月
共同募金会の補助により、行事用テント2張を整備する。

- 平成7年12月
わかふじ寮通所部定員19名に増員の許可を受ける。
- 平成8年1月
道(地方振興)補助により、ステンレス製移動炭化炉及び溶剤リサイクラーを整備する。

- 平成8年4月
日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として重度身体障害者授産施設第2わかふじ寮(定員50名)を新築し開所する。

- 平成8年7月
初代施設長に田中雅之が就任する。重度身体障害者授産施設開設に伴い、わかふじ寮の定員を40名に減員する。

- 平成8年7月
新得町の補助により第2わかふじ寮の外構工事を行う。

- 平成9年3月
中央競馬主社会福祉財団の補助金を主財源にして、やすらぎ荘食堂の増築118.4㎡を行う。

- 平成9年9月
わかふじ寮老朽改築移転用地として、第2わかふじ寮隣接地5,218㎡を太田真弘氏より購入する。

- 平成9年10月
トムラ登山学校レイクインを利用し、サテライトデイサービス事業を開始する。

- 平成10年5月
寄付金付お年玉付郵便葉書に付加される寄付金の配分を受け、特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘に車輛を整備する。身体障害者療護施設建設用地として、新得町の助成により、新得町屈足旭町1丁目に土地4,958.66㎡を取得する。

- 平成10年7月
新得町西2線38番地に、わかふじ寮家族会でゲストハウスを建設する。



- 平成10年10月
国庫補助を主財源として、身体障害者授産施設わかふじ寮の老朽改築を行い、第2わかふじ寮に併設移転し、施設長に桑原隆俊が就任する。合わせて国庫補助を主財源として、身体障害者通所授産施設わかふじワークセンター(定員40名)を開所し、施設長に田中雅之が就任する。わかふじワークセンターの開所に伴い、わかふじ寮の定員を30名に減員する。

- 平成10年10月
身体障害者療護施設建設用地として、新得町の助成により、新得町屈足旭町1丁目、旭町2丁目、旭町東1丁目に土地6,659㎡を取得する。

- 平成10年12月
山本実理事長退任により、後任に佐々木忠利が理事長に就任する。

- 平成11年2月
中央競馬主社会福祉財団の補助金を主財源として、ペーカリ機器の整備を行い、わかふじ寮内に「パン工房わかふじ」を開店する。

- 平成11年7月
山本実前理事長が急逝。法人葬により葬儀を施行する。

- 平成12年1月
身体障害者療護施設職員住宅建設用地として、新得町屈足旭町1丁目に、新得町土地開発公社より土地1,740㎡を取得する。

- 平成12年3月
国庫補助を主財源として、新得町屈足旭町1丁目に、屈足わかふじ園職員住宅、独身者用2階建1棟12戸、世帯用平屋建1棟2戸を新築する。
- 平成12年4月
サテライトデイサービスを廃止する。

- 平成12年4月
身体障害者療護施設屈足わかふじ園(定員50名)及び身体障害者デイサービスセンター屈足わかふじデイサービスセンター3,516.741㎡を新築し開所する。
- 平成12年5月
初代施設長に田中雅之が就任する。就任に伴い、わかふじ寮及び第2わかふじ寮の施設長に桑原隆俊、わかふじワークセンターの施設長に鈴木睦が就任する。日帰りサービスセンターやすらぎ荘が、新得町保健福祉センターなごみに移転し、センター長に清野光彦が就任する。介護保険制度施行により、「特別養護老人ホーム」が「介護老人福祉施設」に、「在宅老人日帰りサービスセンター」が「通所介護事業所」に変わり、短期入所生活介護事業所が独立した事業となる。

- 平成12年11月
わかふじ寮創設者の田中皎一氏が急逝。法人葬にて葬儀を施行する。
- 平成13年4月
中央競馬主社会福祉財団の助成を受け、屈足わかふじ園に車椅子用リフト車を整備する。

- 平成13年4月
居宅介護事業所新得やすらぎ荘、訪問介護事業所新得やすらぎ荘を開所し、施設長に大山口功が就任する。在宅老人日帰りサービスセンターやすらぎ荘を新得やすらぎ荘内に移転する。清野光彦センター長が退任し、大山口功がセンター長を兼務する。

- 平成15年4月
支費制度導入により、重度身体障害者授産施設が廃止され、第2わかふじ寮が身体障害者授産施設に変更となる。
- 平成15年5月
わかふじ寮施設長に田中雅之が就任し、桑原施設長の兼務を解く。屈足わかふじ園施設長に儀藤敦が就任する。
- 平成15年6月
わかふじ寮の定員を40名に増員し、第2わかふじ寮の定員を40名に減員する。

- 平成15年8月
道共同募金会の補助を受け、わかふじワークセンターに8人乗りワゴン型車両を整備する。

- 平成15年12月
わかふじ寮・第2わかふじ寮・わかふじワークセンターに併設して、日本自転車振興会の補助を主財源に地域交流ホーム「ふじ」528.625㎡を整備する。
- 平成16年3月
在宅老人日帰りサービスセンターの増築210.16㎡を行う。

- 平成16年10月
日本財団の助成を受け、屈足わかふじ園に車椅子用軽自動車を整備する。

- 平成16年10月
設立50周年。

- 平成16年12月
日本自転車振興会の補助を主財源に木工作業棟921.2㎡を増築する。
- 平成17年3月
日本郵政公社・寄付金付お年玉付郵便葉書等寄付金を主財源に軽作業棟382.32㎡を建設する。

- 平成17年3月
日本財団の助成を受け、わかふじワークセンターにマイクロバスを整備する。

- 平成17年4月
やすらぎ荘・新得やすらぎ荘施設長、日帰りサービスセンターやすらぎ荘センター長、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所管理者大門口功が退任。後任に高畑訓子が就任する。

- 平成17年10月
日本損害保険協会の助成を受け新得やすらぎ荘に車椅子用リフト車を整備する。

- 平成17年11月
車両競技公益資金記念財団の助成を主財源としてやすらぎ荘屋上防水工事を行う。

- 平成18年10月
障害者自立支援法施行に伴い、わかふじ寮とわかふじワークセンターが新体系に移行する。わかふじ寮が障害者支援施設「就労移行支援40名・施設入所支援40名」、わかふじワークセンターが障害福祉サービス事業所「就労移行支援18名、就労継続支援B型22名」となる。

- 平成18年10月
屈足わかふじデイサービスセンターが「身体障害者デイサービス事業」から「市町村との契約による経過的デイサービス事業」に変更になる。

- 平成19年9月
日本財団の助成を主財源として、旧佐幌小学校を改修しわかふじ佐幌工場(ペットフード生産工場)を整備する。

- 平成19年10月
新得町補助を主財源として、新得やすらぎ荘ショートステイ棟(定員10名)248.16㎡を増築する。

- 平成20年4月
新得町から町立養護老人ホームひまわり荘(定員50名)の指定管理を受け、事業を開始する。初代施設長に佐藤隆明が就任する。



- 平成20年9月
財団法人JK Aの補助を主財源に移送車両(車椅子仕様スロープ式)をやすらぎ荘に整備する。

- 平成20年10月
日本財団の助成を主財源として、わかふじワークセンターにパン製造機器を整備する。

- 平成21年1月
日本財団の助成を主財源として、訪問介護事業所新得やすらぎ荘にヘルパー車を整備する。
- 平成21年2月
国庫補助(基盤整備事業)を主財源として、わかふじワークセンター就労訓練棟197.36㎡を増築する。
- 平成21年3月
認可外保育施設たんぼ園を閉園する。
- 平成21年4月
屈足わかふじ園施設長儀藤敦が退任し、後任に第2わかふじ寮施設長の桑原隆俊が就任する。第2わかふじ寮の施設長を田中雅之が兼務する。
養護老人ホームひまわり荘が厚生協会に完全移譲される。
- 平成21年4月
たんぼ園の建物を利用し、日帰りデイサービスセンターやすらぎ荘の午前デイ、午後デイを開始する。
- 平成21年9月
日本財団の助成を主財源として、わかふじ寮に2tトラックを整備する。
- 平成21年10月
わかふじ寮の実施事業を「就労移行支援6名、就労継続支援B型34名、施設入所支援40名」、わかふじワークセンターの実施事業を「就労継続支援B型40名」に変更する。
- 平成21年11月
屈足わかふじ園が新体系に移行。身体障害者療護施設から障害者支援施設「生活介護55名、施設入所支援52名」に事業変更する。
清水町南4条9丁目に清水デイサービスセンターやすらぎ荘を開所する。
- 平成22年3月
養護老人ホームひまわり荘移転改築用地として、新得町の助成を受け太田真弘氏より新得町西3条北1丁目5番地6の土地13,383㎡を取得する。
- 平成22年4月
佐々木忠利理事長が退任し、後任に鈴木政輝が就任する。
- 平成22年8月
国庫補助(共生型基盤整備事業)を主財源として共生型ホームさくら(240.76㎡)を建設し、指定障害福祉サービス事業所さくら(指定共同生活介護・指定共同生活援助)定員4名、共生型ホームさくら(高齢者向け住宅)定員2名を開所する。
- 平成22年11月
わかふじ寮の施設入所支援の定員を34名に減員する。
- 平成23年10月
国庫補助(共生型基盤整備事業)を主財源として共生型ホームさくらⅡ(240.76㎡)を建設し、指定障害福祉サービス事業所さくらの定員を8名、共生型ホームさくら(高齢者向け住宅)の定員を4名に変更する。
- 平成23年10月
道及び町補助金を主財源とし、養護老人ホームひまわり荘老朽化に伴う移転改築

- 工事(2,639.48㎡)及び国庫補助を主財源とした地域交流スペースなでしこ(177.62㎡)が完成し、旧施設より移転する。
 - 平成24年2月
国庫補助(大規模生産設備事業)を主財源として、わかふじワークセンター(わかふじ佐幌工場)にペットフード充填機・ロータリーポンプユニットを整備する。
 - 平成24年3月
事業転換促進交付金を主財源として障害者グループホームさくらⅢ(240.76㎡)を建設し、指定障害福祉サービス事業所さくらの定員を14名に変更する。
わかふじ寮の施設入所支援の定員を24名に減員する。
 - 平成24年3月
養護老人ホームひまわり荘施設長佐藤隆明氏が退任し、後任施設長に田中雅之が就任する。
 - 平成24年4月
第2わかふじ寮が新体系に移行。身体障害者授産施設から障害者支援施設「生活介護40名、施設入所支援40名」に事業変更する。
 - 平成24年12月
新得町の定住住宅建設促進事業の助成を受け、新得町西3条南1丁目に職員住宅「単身者用3棟(12戸)、世帯用1棟(2戸)」を新築する。
- 
- 平成25年3月
国庫補助(基盤整備事業)を主財源として、わかふじ寮軽作業棟に就労訓練棟149.058㎡を増築し、合わせて既存の改築をする。
 - 平成25年4月
地元新得町で社会事業授産施設を運営している社会福祉法人新得白生舎と合併する。名称を厚生協会新得白生舎に改め、施設長に松田信男が就任する。合併に伴い、社会福祉法人新得白生舎は解散する。
ひまわり荘施設長田中雅之の兼務が解かれ、後任に御幸直美が就任する。
- 

- 平成25年6月
屈足デイサービスセンターやすらぎ荘を新得町屈足柏町1丁目に定員10名で開設する。
- 
- 平成25年8月
やすらぎ荘老朽改築工事着工。工事に伴い建物が解体されるため、日帰りサービスセンターたんぼ園、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所を新得町西3条南7丁目に移転する。
 - 平成25年10月
田中皎一記念碑整備
- 
- 平成25年11月
国庫補助金(耐震化整備促進事業)を主財源に、さくらⅠにスプリンクラーを整備する。
 - 平成26年2月
日本財団の助成を受け、わかふじワークセンターに出張販売車、わかふじ寮にワゴン車(商品搬送用)、訪問介護事業所にヘルパー車を整備する。
 - 平成26年8月
国庫補助を主財源にやすらぎ荘移転老朽改築工事が終了し、合わせて日帰りサービスセンターやすらぎ荘、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所も同建物に移転する。
 - 平成27年1月
新得町の定住住宅建設促進事業の助成を受け、新得町西3条南1丁目に職員住宅「単身者用1棟(4戸)」を新築する。
 - 平成27年3月
北海道及び新得町補助金を主財源とする厚生協会新得白生舎の老朽移転改築工事が竣工し、新得町西1条北1丁目の新工場でクリーニング事業を開始する。
 - 平成27年10月
大友福祉振興財団の助成により屈足わかふじ園ナースコールを改修整備する。
 - 平成28年1月
サテライト事業所として、訪問介護事業所やすらぎ荘を鹿追町新町2丁目に開設する。



- 平成28年2月
新得町の定住住宅建設促進事業の助成を受け、新得町西1条北1丁目に職員住宅「単身者用1棟(8戸)」を新築する。
- 平成28年3月
厚生協会新得白生舎の新得町所有地(新得町西1条北1丁目54番地3のうち2,769㎡)を法人で購入する。
- 平成28年4月
新得町の補助金を主財源として、地域密着型特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘(20床)を新得町西3条北1丁目に開設し、併せてショートステイを増床(2床)する。
- 平成28年8月
台風10号による河川の氾濫により3週間にわたっての断水被害があり、法人全施設が対応にあたった。
- 平成28年11月
屈足わかふじ園職員住宅前外舗装工事を実施する。
- 平成28年12月
屈足デイサービスセンターやすらぎ荘を廃止する。
- 平成29年6月
わかふじ寮に隣接する土地12,979.44㎡を太田真弘氏より取得する。
新得町西3条北1丁目5-8(4,476.00㎡)
新得町西3条北1丁目8-2(535.00㎡)
新得町西4条北1丁目9-2(1,941.44㎡)
新得町西4条北1丁目1-6(2,065.00㎡)
新得町字新得西2線51-6(838.00㎡)
新得町字新得西2線51-7(3,124.00㎡)
- 平成29年6月
元わかふじ寮利用者ご遺族、林常行氏から宅地(新得町西2条南2丁目13番地332.42㎡)の寄付を受ける。
隣接した宅地(新得町西2条南2丁目12番地334.67㎡)を大城豊子氏より購入する。(地域共生型ハウスたんぼの建設予定地とする)
- 平成29年8月
太田真弘氏より鉄骨造り平屋建て車庫(新得町西3条北1丁目9番地2 291.60㎡)の寄付を受ける。
- 平成29年12月
「地域共生型ハウスたんぼ」を新築する。木造2階建て床面積186.52㎡(新得町西2条南2丁目13番地)
- 平成30年1月
日帰りサービスセンターたんぼが「地域共生型ハウスたんぼ」に移転する。
- 平成30年2月
「地域共生型ハウス」に共生型サロンを開

- 所する。
- 平成30年4月
田中雅之常務理事(わかふじ寮、第2わかふじ寮施設長)が退任、後任に屈足わかふじ園施設長桑原隆俊が就任する。屈足わかふじ園施設長の後任に倉科孝博が就任する。
- 平成30年4月
鈴木政輝理事長が平成30年春の叙勲、瑞宝双光章を受章する。
- 平成30年6月
屈足わかふじ園、萬田記念財団からの助成により、温冷配膳車を整備する。
- 平成30年8月
田中雅之前常務理事が参与に就任する。
- 平成30年9月
北海道胆振東部を震源とする地震発生により大規模停電発生。法人各施設で停電対応にあたる。
三法人連絡協議会災害協定書に基づき、被災地の北海道厚真福祉会の利用者17名の受け入れを行う。
- 平成30年12月
第2わかふじ寮施設長桑原隆俊の兼務が解かれ、後任に東貴志が就任する。
- 令和元年5月
清水基金からの助成を主財源にわかふじ寮木工作業棟にワイドベルトサンダーを整備する。
- 令和元年8月
生命保険協会帯広協会よりパン工房にアルミビーターの寄贈を受ける。
- 令和元年8月
わかふじワークセンター施設長鈴木睦が退任、後任に東貴志が就任する。第2わかふじ寮施設長は桑原隆俊が兼務する。
- 令和元年8月
わかふじ寮・第2わかふじ寮・わかふじワークセンターの屋上防水・外壁改修工事を行う。
- 令和元年10月
丸紅基金からの助成を主財源にパン工房にドゥコンディショナーを整備する。
- 令和元年10月
新得町補助(医療・福祉・介護施設等災害対策事業費)を主財源にさくらに非常用発電機を整備する。
- 令和2年3月
国庫補助(令和元年度社会福祉施設等施設整備費)及び道補助(平成30年度北海道老人福祉施設等整備費)を主財源に非



- 常用自家発電機を第2わかふじ寮、屈足わかふじ園、ひまわり荘、新得やすらぎ荘に整備する。
- 令和2年3月
国庫補助(新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業)を主財源に感染対策物品等を各事業所で整備する。
- 令和2年4月
人事異動により、屈足わかふじ園施設長に高畑訓子、ひまわり荘施設長に倉科孝博、やすらぎ荘、新得やすらぎ荘施設長に御幸直美が就任する。
- 令和2年5月
わかふじ佐幌工場に高圧滅菌装置(レトルト機)を整備する。
- 令和2年5月
厚生協会新得白生舎施設長松田信男が退任し、後任に加藤和博が就任する。
- 令和2年6月
厚生協会新得白生舎の名称を新得白生舎に改める。
- 令和2年6月
わかふじ寮に隣接する土地、上川郡新得町西3条南1丁目5番10(648㎡)を取得する。
- 令和2年6月
新得町補助(社会福祉施設等感染防止支援事業交付金)を主財源に感染対策物品等を法人全体で整備する。
- 令和2年10月
屈足わかふじ園の屋上防水・外壁改修工事を行う。
- 令和2年12月
日本財団の助成を受け、清水デイサービスセンターやすらぎ荘に送迎車両を整備する。
- 令和3年3月
やすらぎ荘施設長御幸直美の兼務が解かれ、後任に田中透嗣が就任する。
- 令和3年6月
鈴木政輝理事長が退任し、後任に田中雅之が就任する。
- 令和3年6月
新得白生舎が事業開始より創立60周年を迎える。
- 令和3年8月
鈴木政輝前理事長が顧問に就任する。
- 令和3年10月
屈足わかふじ園職員住宅外塗装改修工事を行う。

障害者支援施設

わかふじ寮

昭和28年4月1日開所(平成10年7月1日老朽改築)
〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
TEL 0156-64-5001・FAX 0156-64-5522



サービスの種類

就労継続支援B型(日中) 定員34名
施設入所支援(夜間) 定員24名
北海道指定 0114700669
建物 わかふじ寮 1,347.29㎡
授産工場 1,557.58㎡
製品倉庫 77.76㎡

建設費 394,825,000円
国庫補助金 159,183,000円
新得町補助金 118,659,000円
社会福祉医療事業団借入金(新得町債務負担) 93,200,000円
北海道新聞社会福祉振興基金借入金(法人債務負担) 18,000,000円
法人負担金 5,782,000円



障害福祉サービス事業所

わかふじワークセンター

平成10年7月1日開所
〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
TEL 0156-64-5001・FAX 0156-64-5522



サービスの種類 就労継続支援B型 建設費 255,088,000円
定員 40名 国庫補助金 152,886,000円
北海道指定 0114700693 新得町補助金 31,231,000円
建物 287.89㎡ 社会福祉医療事業団借入金(新得町債務負担) 67,000,000円
法人負担金 3,971,000円



通所者の家庭に設置している、携帯電話を使った聴覚障害者用の緊急通報システム

施設利用のしおり【利用できる対象者及び支援内容】

① 就労継続支援B型事業
わかふじ寮・わかふじワークセンター

主に聴覚障害者で、一般企業では雇用につけづなかつた、作業意欲のある方に対し働く場を提供し、就労移行に向けた知識、能力の向上及び工賃向上に必要な支援等を行います。

② 生活介護事業 第2わかふじ寮

主に聴覚障害者で日常生活を送る上での食事、入浴、排泄等の支援を受けながら自立した生活を希望されている方。創作的活動、生産活動の機会及びレクリエーション、余暇活動等を提供し、日常生活の質の維持向上に向けた支援を行います。

③ 施設入所支援
わかふじ寮・第2わかふじ寮

主に聴覚障害者で日中は障害福祉サービス事業所を利用し、施設内において自立した生活を希望されている方。住まいの場として日常生活上の相談支援、健康管理、夜間における排泄等の介護の支援を行います。

④ 指定共同生活援助事業 さくら
主に聴覚障害者で、日中は障害福祉サービス事業所等に通い、地域で自立した生活を希望されている方。共同生活住居において食事の提供、相談その他の日常生活上の支援を行います。

⑤ 共生型ホーム さくら
身の回りの事は自立しているが、1人暮らしには不安のある65歳以上で単身の方。

障害者支援施設

第2わかふじ寮

平成8年4月1日開所
〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
TEL 0156-64-5001・FAX 0156-64-5522



サービスの種類

生活介護(日中) 定員40名
施設入所(夜間) 定員40名
北海道指定 0114701394
建物 2,052.21㎡
建設費 596,477,647円
日本自転車振興会補助金 295,880,000円
社会福祉医療事業団借入金(新得町債務負担) 197,900,000円
北海道新聞社会福祉振興基金借入金(法人債務負担) 20,000,000円
新得町補助金 72,753,000円
法人負担金 9,944,647円



居室に設置されているバトライト。来訪者と緊急時に対応しています。

枕の下に入れ、夜間の緊急時に非常ベルと連動して振動する緊急時ハイブレーターがあります。

共生型ホーム

「さくらI・II・III」

平成22年8月1日開所
〒081-0033 上川郡新得町西3条南1丁目1-1・2-1
北海道指定 0124701152
利用料 55,000円(家賃・管理費・食費を含む)

※上記の金額は食事3食を提供した場合の目安の金額となっています。
※各部屋で使用する光熱水費(電気・水道・灯油・電話)・家財保険等は実費負担です。

	さくら	さくらII	さくらIII
開設	平成22年8月	平成23年10月	平成24年3月
定員	4名・(高齢者2名)	4名・(高齢者2名)	6名
建物面積	240.76㎡	240.76㎡	240.76㎡
居室	15.38㎡	13.72㎡	13.72㎡
居間・食堂	28.98㎡	28.98㎡	28.98㎡
建設費	29,788,000円	29,757,000円	30,807,000円
	【内訳】 国庫補助金 29,788,000円	【内訳】 国庫補助金 29,757,000円	【内訳】 道交付金 21,500,000円 法人負担金 9,307,000円



①②③④の事業所は満18歳以上の主に聴覚障害者の方で、市町村において介護給付・訓練給付の支給決定を受けた方。

【利用手続き】
当事業所の概要・支援方針を理解された上で利用契約

を結んでいただきます。ご不明な点は当事業所に直接お問い合わせ頂くか、お住まいの市町村にご相談下さい。

※共生型ホームさくらの利用の手続き及び経費については、当施設にお問い合わせ下さい。

【利用に伴う経費】
国の制度による一定の自己負担金があります。詳しくは当事業所までお尋ね下さい。

【工賃】
作業技術に応じて工賃が支給されます。時給制で毎年見直しを行い昇給もあります。



がんばり

わかふじ寮の家具製品は、
ナラ・タモ・カバ・エゾマツ・トドマツ等、
道産の木材を主に使用しています。
やさしい木のぬくもりに包まれた
丈夫なわかふじ寮のオーダー家具。
一度あなただけのオリジナル家具を
手にしてみてください。

セルプ(社会就労センター)とは
授産の新しい名称が
SELP/社会就労センターです。

セルプ(社会就労センター)とは、働く意欲が
ありながら障害等の理由により一般企業等
での就労に困難を抱えている方々に就労支
援や生活支援、就職支援等のサービスを提供
する事業所の総称です。
セルプ(SELP)は英語のSelf-Help(セルフ
ヘルプ=自助自立)からの
造語で、この言葉には「利用
者が自立をめざして働く
ことに挑戦する」という
願いが込められています。



フロアカーリング

1993年に地元新得町で考案された軽スポーツです。この
競技はカーリングの楽しさを誰でも手軽に屋内でできるス
ポーツとして開発されました。カーリングのストーンにあたる
フロッカーに道産のカバの集成材を使い、キャスターをつけて
屋内でも競技できるよう工夫されています。わかふじ寮では
この用具の生産を行っています。
競技は1人から4人まで可能です。
用具の販売、競技のルールなど詳しくはわかふじ寮までお問い合わせ
ください。



よろこび

わかふじ寮の製品は家具ばかりではありません。大小さまざまなウッドクラフトやウエスの生産、販売な

ども行っています。施設の利用者はそれぞれ自分の能力に合った作業に従事しています。また技術面、生活面が社会的に自立可能になった場合には就職の斡旋も行っており、今までに150名の仲間が立派な社会人として社会に巣立っています。

木工作業棟

平成10年7月
平成16年12月整備



建物	921.2㎡
建設費	128,572,500円
日本自転車振興会補助金	32,215,000円
新得町補助金	12,000,000円
法人負担金	84,357,500円

軽作業棟

平成16年12月整備
平成25年3月増築



主にウエス作業を行っています。



■平成16年整備

建物	382.32㎡
建設費	23,394,000円
寄付金付お年玉付郵便葉書等寄附金補助金	6,573,000円
法人負担金	16,821,000円

■平成25年増築整備

建物	149.058㎡
建設費	18,427,000円
国庫補助金(基盤整備事業)	18,427,000円

看板事業

大型看板・車体看板・横断幕など様々な看板を製作します。デザインから施工まで一貫した工事を行います。



ペットフード わかふじ佐幌工場 平成19年10月整備



平成19年10月より日本財団の補助を主財源に、新得町より貸与を受けた旧佐幌小学校を改修し、新たな授産事業としてペットフードの生産を行っています。鹿肉、ジャケ、ホッケ等の北海道産の安全、安心な食材を利用し、利用者の工賃倍増を目指しています。

建物	1,268.557㎡
整備費	32,340,000円
日本財団補助金	21,400,000円
法人負担金	10,940,000円

わかふじワークセンター就労訓練棟 平成21年2月整備



パンの製造及び包装作業等を行っています。

建物	197.36㎡
建設費	22,155,000円
平成20年度障害者基盤整備事業	
自立支援対策推進費補助金	20,000,000円
法人負担金	2,155,000円



パン工房 わかふじ 平成11年2月開店



営業時間 10:00~18:00
定休日 日曜日・月曜日・祝日
住所 上川郡新得町西3条南1丁目
電話 0156-64-5133

社会福祉法による授産施設

新得白生舎

〒081-0021 上川郡新得町西1条北1丁目54-3
TEL 0156-64-5209 FAX 0156-64-5345

授産種目 クリーニング及び付帯作業

定員 20名

営業日 月曜日～土曜日

営業時間 平日 8時30分～17時00分
土曜日 8時30分～12時00分

- 敷地面積 4,024.74㎡
- 延建築面積 445.76㎡
- 総工費 169,214,000円
- 内訳 北海道補助金: 52,860,000円
新得町補助金: 112,000,000円
法人負担金: 4,354,000円

●施設の概要・沿革

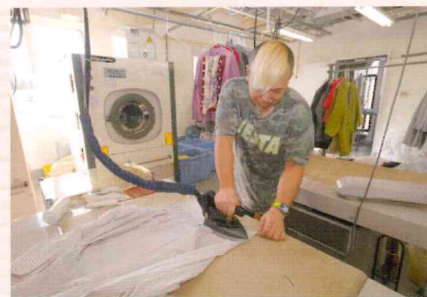
昭和36年 6月 新得町母子会授産所としてクリーニング事業を開始する。
昭和42年12月 財団法人として認可を受ける。
昭和44年11月 新得町本通南2丁目クリーニング工場が竣工する。
昭和53年 7月 社会福祉法人として認可され、社会福祉事業授産施設新得白生舎となる。 ※以降は沿革の概要をご覧ください。

目的

心身の障害及び世帯の事情による要保護を理由とする方を対象に、就労又は技能の習得のために必要な機会及び便宜を与えるよう授産事業を行い、自立を図ることを目的としています。

利用できる方

身体上、精神上の理由、または世帯の事情により就業能力の限られている方が利用いただけます。



地域交流ホーム ふじ

平成15年12月整備
〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
TEL 0156-64-5001・FAX 0156-64-5522

建物 528.62㎡
建設費 99,604,323円

日本自転車振興会補助: 26,600,000円
新得町補助: 26,000,000円
法人借入金: 38,000,000円
法人負担金: 9,004,323円

主な設備

多目的ホールA 141㎡
多目的ホールB 144㎡
A・B合計285㎡



職員住宅

新得地区職員住宅

(平成24・26・27年度建設)

- 単身用5棟(1LDK) トイレ・風呂別 24戸
- 世帯用1棟(2LDK) 2戸



新得地区職員住宅(単身用)



新得地区職員住宅(世帯用)

(単身用)



居間



浴室



寝室

屈足地区職員住宅

(平成11年度建設)

- 単身用1棟(1LDK) トイレ・風呂別 12戸
- 世帯用1棟(2LDK) 2戸



屈足地区職員住宅(単身用)



屈足地区職員住宅(世帯用)

障害者支援施設

屈足わかふじ園

平成12年4月1日 開所
 平成21年11月1日 新体系移行
 〒081-0151 上川郡新得町屈足旭町1丁目
 TEL 0156-65-2001 FAX 0156-65-2003
 北海道指定 0114701055

- 定員** ○生活介護事業(日中):定員55名
 (旧デイサービス事業3名を含む)
 ○施設入所支援(夜間):定員52名
- 併設事業** 短期入所事業(ショートステイ)定員3名
- 敷地面積** 12,958,90㎡
- 建物構造** 鉄筋コンクリート造り平屋建
- 建物面積** 3,516,74㎡
- 建設費** 969,048千円
- | | |
|-----------------------|--------------|
| 国庫補助金 | 306,139,000円 |
| 道費補助金 | 153,072,000円 |
| 社会福祉医療事業団借入金(新得町債務負担) | 200,000,000円 |
| 北海道新聞社会福祉振興基金借入金 | 20,000,000円 |
| 新得町補助金 | 283,270,000円 |
| 法人負担金 | 6,567,000円 |

施設的环境

新得町の屈足地区にあり、市街地に隣接しており、静かな中にも地域交流が積極的に図れる場所にあります。

施設の特徴

- ・平屋で段差がなく、車椅子の方が安心して生活できる構造になっています。
- ・居室は全て個室で、プライバシーが保たれます。
- ・小舎制になっており、ゆったりとした生活空間が確保されています。
- ・ベッドは全て電動リクライニングベッドを使用しています。
- ・身体の状態に応じた入浴設備が整っています。



施設を利用できる方

18歳以上の障害者の方で、市町村において入所支援支給の決定を受けた方が利用できます。

利用手続

当施設の概要・支援方針を理解された上で利用契約を結んでいただきます。ご不明な点は当施設に直接お問い合わせ下さるか、お住まいの市町村にご相談下さい。

利用に伴う経費

国の制度による一定の自己負担があります。詳しくは当施設までお尋ね下さい。



施設の体系

生活介護事業

…日中の活動支援を行います。

サービス内容

- ・日常生活動作(食事・入浴・排泄等)の介護の提供。
- ・身体機能及び日常生活の維持向上の為の支援。
- ・創作的活動又は生産活動の機会の提供。
- ・レクリエーション、余暇活動、行事の提供。

施設入所支援

…住まいの場として基本的な生活支援を行います。

サービス内容

- ・夜間における排泄等の介護の提供。
- ・日常生活上の相談支援等の提供。
- ・健康管理の提供。

短期入所サービス(ショートステイ)

…在宅で生活されている障害者をお持ちの方が、介護者の病气・冠婚葬祭・旅行等の理由で一時的な介護を必要とされる場合にご利用いただけます。

サービス内容

- ・施設入所支援と同じサービスが受けられます。
- ・必要に応じて送迎(移動支援又は福祉有償運送)の利用も可能です。

(※ご利用期間については、ご相談下さい。)



養護老人ホーム

ひまわり荘

〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目5番地6
TEL 0156-64-5246 FAX 0156-69-5003

施設の理念

1. 利用者が、安心して快適な日々をおくれるよう支援します。
2. 利用者の個々の能力を高め自立への支援に努めます。
3. 利用者ひとりひとりを尊重し、その人らしい生活を援助します。
4. 利用者が清潔な環境で過ごせるよう努めます。
5. 専門職を自覚し、日々研鑽に励み自己啓発に努めます。

目的

環境上の理由または経済的理由により居宅において養護を受けるのが困難な方に入所して頂き、自立した日常生活を営み、社会活動に参加できるように援助を行います。

利用できる方

65歳以上の高齢者で行政より入所が必要と判断された方。

申込方法

利用希望の方は、ご本人が居住している市町村にご相談ください。

費用

利用中の費用は、市町村が負担します。但し、入所者及び扶養義務者の負担能力に応じ、居住していた市町村が費用の一部を徴収します。

施設概要

沿革

- 昭和48年10月13日 開設(新得町)
- 平成20年4月1日 厚生協会が指定管理者の指定を受ける
- 平成21年4月1日 新得町から厚生協会に施設の運営が完全移譲
- 平成23年10月1日 施設の老朽化による移転改築工事終了し新施設に移転

定員 50名

敷地面積 13,383㎡

建物面積 2,817㎡

建設費 1,055,122,220円

国、道補助金

建築工事 211,600,000円

木質内装 35,175,000円

地域交流スペース 30,000,000円

新得町補助金 716,284,700円

法人負担金 62,062,520円



特定施設入居者生活介護事業所

ひまわり荘

目的

養護老人ホームひまわり荘の利用者を対象に要介護状態になり日常生活で介護を必要とされる方に介護サービスを行います。

開設 平成20年4月1日

利用定員 29名

事業者番号 0174701193

訪問介護事業所

ひまわり荘

目的

特定施設入居者生活介護事業所ひまわり荘の利用者を対象に身体介護、生活援助等の介護を行います。

開設 平成20年4月1日

事業者番号 0174701193

年間行事予定

4月	お楽しみ食事会
5月	合同花見・端午の集い
6月	家族との集い
7月	ふれあい盆踊り
8月	盆法要・日帰り旅行
9月	敬老会・秋彼岸法要
10月	移転記念食事会
11月	保育所交流会
12月	クリスマスの集い
1月	新年会・正月遊び
2月	節分
3月	ひな祭り

施設の内装材は北海道産の木材を使用しています。



居室



娯楽室



食堂



浴室



機械浴室



地域交流スペース「なでしこ」

聴覚障害者養護老人ホーム

やすらぎ荘

昭和56年4月 開所
平成26年8月 移転改築
〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
TEL 0156-64-6938 FAX 0156-64-3157
面会時間／9:00～20:00

定員 50名
併設事業 居宅介護支援事業、通所介護事業、訪問介護事業
建物面積 2,979.74㎡
構造 木造(一部鉄骨)
建設費 749,485,608円

内訳

北海道補助金 233,755,000円
新得町補助金 211,600,000円
社会福祉医療事業団借入金 180,000,000円
法人負担金 124,144,608円

施設の理念

1. その人らしい自由な生活を支援していく。
2. 聴覚障害者、それぞれのニーズにあった支援をしていく。
3. 心地よい生活が送られるよう環境整備をしていく。

目的

聴覚・言語障がい者で身体障害者手帳を所有する高齢者が家庭的で安心した生活を送ることのできる施設として設立された聴覚障害者専用の養護老人ホームです。手話を主に身振り等さまざまなコミュニケーションを取りながらその人らしい生活を支援します。

利用できる方

65歳以上で身体障害者手帳を所持する方がご利用できます。介護が必要になった時は施設内でヘルパー等の介護保険サービスを利用できます。また更に重度化した場合は優先的に併設している特別養護老人ホームをご利用いただけます。



聴覚障害者用の情報伝達装置



特別養護老人ホーム

新得やすらぎ荘

平成2年4月 開所
〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目2-1
TEL 0156-64-5196 FAX 0156-64-6094
面会時間／9:00～20:00

定員 50名
併設事業 短期入所生活介護事業
建物面積 1,640.06㎡
構造 鉄筋コンクリート平屋建
建設費 382,551,400円

内訳

日本自転車振興会補助金 256,727,500円
新得町補助金 126,082,300円
法人負担金 741,600円

施設の理念

1. 明るく楽しく快適な生活環境を提供する。
2. プライバシーを守り、思いや自己決定を尊重する。
3. なじみの関係の中で安心して生活できるように支援する。

目的

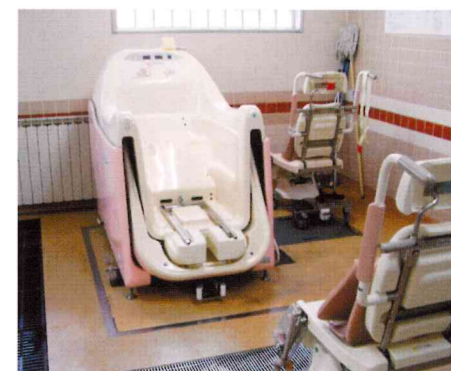
介護を必要とされる高齢者等が安心して日常生活を営めるように支援を行います。又、聴覚・言語障がい者の方もその人らしい生活ができるように、さまざまなコミュニケーションを取りながら支援を行います。

利用できる方

要介護認定を受けている要介護3～要介護5の方がご利用できます。

年間行事予定

4月	開所記念日
5月	お花見・長寿の祝
6月	ゲーム大会・おやつの日
7月	ふれあい盆踊り
8月	七夕・花火大会
9月	秋の味覚祭
10月	ゲーム大会
11月	鍋の会・長寿の祝
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	鍋の会
3月	長寿の祝



短期入所生活介護事業所

新得やすらぎ荘

〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
 TEL 0156-64-5196 FAX 0156-64-6094
 面会時間/9:00~20:00
 定員 10名

目的

短期入所生活介護事業所(ショートステイ)は在宅で生活されている高齢者の介護をされている方が、冠婚葬祭、病気、旅行等のため介護ができない場合や介護疲れを感じたときなどに、ご家族に代わって日常生活の介護を提供します。

利用できる方

要介護認定を受け居宅介護支援事業所においての居宅サービス計画に基づいて利用することができます。(要介護度によって利用可能日数が異なります。)

施設利用者と共にクラブ活動や、行事等にも参加していただけます。



地域密着型特別養護老人ホーム

新得やすらぎ荘

〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
 TEL 0156-67-7007 FAX 0156-64-6094
 面会時間/9:00~20:00

目的

新得町にお住まいの方が要介護状態になっても、住み慣れた町で、穏やかに安心して暮らせるよう支援を行います。

利用できる方

要介護認定を受けている要介護3~要介護5の方がご利用できます。

平成28年4月 開所
 定員 20名(1ユニット10名×2)
 建物面積 1,375.10㎡
 構造 鉄筋造平屋建
 建設費 562,093,000円
 内訳
 新得町補助金 552,288,000円
 法人負担金 9,805,000円



訪問介護事業所

新得やすらぎ荘

〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
 TEL 0156-69-5100 FAX 0156-64-3157

営業時間 9:00~17:30

営業日 月曜日~土曜日(12月31日~1月3日を除く)

実施地域 新得町・鹿追町

サテライト事業所 〒081-0201 鹿追町新町2丁目

目的

自分や家族だけで日常生活を営むことが難しくなった要介護者に対して、自宅に赴き、入浴、排泄、食事等の介護、掃除、洗濯、調理等日常生活のお世話をを行うことを目的としています。

利用できる方

要介護認定を受けた要介護者及び要支援者、生活支援サービス事業対象者と認定された方。



その他事業

● 居宅介護事業(障害福祉サービス)

障害程度区分が区分1以上の方が利用できます。居宅において、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の生活全般にわたる援助を行います。



● コミュニケーション支援事業(手話通訳)

聴覚障害者の方が生活する際に必要な手話通訳のコーディネート及び派遣を行います。お住いの市町村に申請いただいて利用する方法と、直接依頼して通訳を派遣する方法(有料)があります。



新得町では「ろう者と共生する」町づくりを進めるため、平成26年4月1日より「手話に関する基本条例」が施行され、北海道では石狩市に続いて2番目に制定されました。



手話推進キャラクター「手話ブルー」

● 介護職員初任者研修事業

毎年6月ごろに開校し、専門の講師による研修を実施しています。通信制で自宅学習の他、年間90時間程度のスクーリングを受講し、試験に合格することで資格を得られます。取得後は介護の現場で初任者研修修了者として働くことが出来ます。



● 福祉有償輸送事業

あらかじめ登録したご利用者様を、車いす利用のまま乗り込める福祉車両を使用して有償で移送を行う事業です。利用には事前予約が必要です。



居宅介護支援事業所

新得やすらぎ荘

〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
TEL 0156-69-5110 FAX 0156-64-6094
営業時間 9:00~17:30
営業日 月曜日~土曜日
(祝日・年末年始等除く)
実施地域 新得町

目的

要介護又は要支援認定を受けられた方々が安心して日常生活を営むことができるよう、ご本人、ご家族の相談を受けながら総合的かつ適切な介護・福祉サービスが受けられるよう介護支援専門員が支援を行います。

※介護支援専門員とは、福祉等の分野で一定の実務経験があり、所定の試験や研修を終了した介護の専門家で、介護の相談やサービスを受けるときの窓口になります。

利用できる方

介護についてお悩みの方は、どなたでもご相談下さい。
料金は無料です。



通所介護事業所

日帰りサービスセンターやすらぎ荘

平成2年4月1日 開設
平成26年8月 移転改築
〒081-0023 上川郡新得町西3条北1丁目
TEL 0156-64-5278 FAX 0156-64-3157
営業時間 8:30~18:30 営業日 月曜日~土曜日(日曜日、12月31日~1月3日を除く)
実施地域 新得町 定員 25名

目的

要介護又は要支援状態となった場合においても、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の支援及び機能訓練を行うことにより心身機能の維持向上、社会的孤立感の解消、家族の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的としています。

利用できる方

要介護認定、介護予防・生活支援サービス事業対象者と認定された方。



地域密着型通所介護事業所

日帰りサービスセンターやすらぎ荘たんぽぽ

平成25年8月1日 開設
平成30年1月 移転
〒081-0032 上川郡新得町西2条南2丁目13番地
TEL・FAX 0156-64-4106
営業時間 ①8:30~12:30 ②13:00~17:20
営業日 ①月曜日~土曜日 ②火・木・金曜日(日曜日、12月31日~1月3日を除く)
実施地域 新得町(トムラウシ地区を除く) 定員 ①・②各10名

目的

要介護又は要支援状態となった場合においても、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の支援及び機能訓練を行うことにより心身機能の維持向上を図ることを目的としています。

利用できる方

要介護認定、介護予防・生活支援サービス事業対象者と認定された方。



地域密着型通所介護事業所

清水デイサービスセンターやすらぎ荘

平成21年11月1日 開設
〒089-0112 上川郡清水町南4条9丁目12-2
TEL・FAX 0156-67-7300
営業時間 ①9:00~12:10 ②13:30~16:40
営業日 月曜日~金曜日(土曜日、日曜日、12月31日~1月3日を除く)
実施地域 清水町、新得町、鹿追町、芽室町 定員 ①15名/②10名

目的

在宅での日常生活動作支援を重視し、転倒予防、認知症や廃用症候群防止等リハビリテーションと予防を目的としております。少人数制で一人ひとりの状態、希望に添ったサービスが提供できるよう専門職の理学療法士がリハビリの計画・実施を行います。

利用できる方

要介護認定、介護予防・生活支援サービス事業対象者と認定された方。



厚生協会 思い出のアルバム



創設当初のわかふじ寮。
初代理事長田村政雄氏から寄贈を受けた民家でした



創設者の
藤川マキエ・
田中皎一両氏



昭和33年お年玉年賀はがきの寄付金を受けて
建設した作業棟



縁側で



出来上がった家具を前にして



初めて買ったテレビを囲んで



入所式の様子 (昭和40年)



昭和40年代の展示即売会の様子



昭和40年代の作業場の様子



事務所で藤川マキエ・田中皎一
両氏を囲んで



入所式で、木工用の工具一式を
もらって

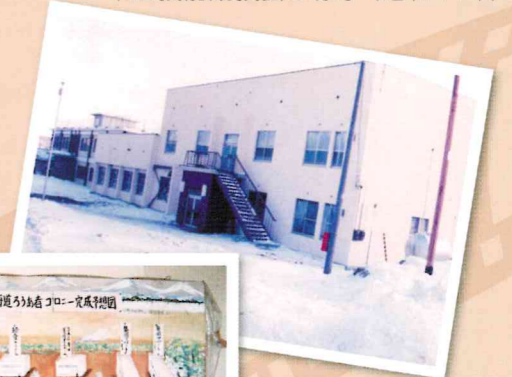


木工技能競技会の様子 (昭和44年)



昭和52年頃の施設全景

故田中元理事長が描いた
将来の施設構想。
ほぼ理想どおりになりました



完成直後の食堂と
女子棟 (昭和52年)



屋外でテントを張っての展示即売会も
よく行っていました



サンデー九の取材を受けて



平成8年
旧わかふじ寮取り壊し前の全景



取り壊し直前の管理棟

取り壊し直前の
木工作業棟



解体工事前日、長年お世話になった建物の前で